



経済学部 経済学科

森 詩恵 (もり うたえ) 教授

「非正規シングル女性」が直面する課題を調査。

「社会保障リテラシー教育」による自立支援を提唱。

大阪経済大学で女性初の副学長である、経済学部の森詩恵教授は、長年にわたり介護保険をはじめとする社会保障制度や「介護と仕事の両立」を実現するためのワークライフバランス政策を専門に研究を続けています。その中で森教授が着目するのが、「非正規シングル女性」に対する支援政策のあり方です。

■ 行政の支援からこぼれ落ちる「非正規シングル女性」。年収が低くても、6割以上は自ら望んで非正規を選択。

非正規シングル女性は、収入の不安定さに加え、現在の日本では年金や社会保障などの制度面でも不利な立場にあり、その労働・生活のリスクに対応できる支援が重要です。

森教授は、大阪市立男女共同参画センター中央館研究室との連携により、非正規雇用で働く子どものいない女性（未婚・既婚）を対象に大阪市・福岡市・札幌市で調査を行い、結果を発表しました。その結果、「約半数が年収200万円未満」にもかかわらず、「6割以上は自ら望んで非正規を選択」していることがわかりました。また、約3割が母親と同居している状況であり、未婚全体では「将来介護、看護をする可能性がある」が5割程度となっており、親亡き後の住まいの確保や経済的困窮も懸念されます。

■ 自助努力には限界も。国が責任をもって「社会保障リテラシー教育」を。

非正規シングル女性の中には、「本来は正社員が良いけれど、厳しい労働環境を受け入れて働くぐらいなら非正規の方が良い」と考えている人も多く、それぞれが安心して働ける労働環境を整備し、当事者の「社会保障リテラシー」を確保・向上させることが重要な課題だと森教授は考えています。

しかし、年々複雑になっている社会保障制度に関する知識、判断力を身に着けるには、自助努力だけでは限界があります。今の働き方が将来の年金や生活にどれくらい関わるかを知り、使いこなす力をつけるため、国による「社会保障リテラシー教育」が必要です。森教授自身も大阪市内で学習会を行っています。

■ シングル・非正規雇用は、親の介護にも影響。社会保障や法福連携による「介護の社会化」が必要。

森教授は、就業状況別に「シングル介護者」の介護・生活状況と支援課題についてもまとめています。現在の介護保険制度では高齢者の日常生活の支援まではカバーできず、家族に大きな負担がかかっています。今後は、家族介護者に対する社会保障上の諸権利の保障、介護者の範囲拡大とその支援策、市民後見人の積極的な活用等を含めた法福連携のさらなる強化など、「高齢者の生活全体の支援を行う “介護の社会化” を検討していく必要がある」と森教授は提唱しています。

森詩恵教授 プロフィール 詳細はこちら⇒<http://web.j8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?kvoInId=vmdogkyvggy>

1972年生まれ、大阪府出身

経歴：2005年～本学専任講師、准教授を経て、2014年～本学教授、2019年～本学経済学部長、2023年～本学副学長

論文：「非正規シングル女性の労働・生活状況と「社会保障リテラシー」」大阪経大論集・第73巻第2号（2022年）

「介護保険制度における「介護の社会化」と家族介護」大原社会問題研究所雑誌No. 771（2023年）

「就業状況からみたシングル介護者の介護・生活状況とその支援課題」経済学研究 第10巻第2号（2023年）

主な著書：「現代日本の介護保険改革」法律文化社（2008年 単著）

所属学会：社会政策学会、日本労務学会、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会

< 本件に関するお問い合わせ先 >

大阪経済大学 企画部広報課 高濱 Tel：06-6328-2431 Mail：kouhou@osaka-ue.ac.jp

大阪経済大学 広報デスク（プランニング・ポート内） 福嶋、小宮 Tel：06-4391-7156

<https://www.osaka-ue.ac.jp>